

インターバンクの声（2016 年 10 月 11 日）

週末に発表された9月の米雇用統計は、非農業部門就業者数の増加が市場予想を下回り、失業率も前月より悪化した。このため、発表直後の為替相場ではドルが主要通貨に対して下落、ドル円は発表前の103円台後半から102円80銭台へと1円近く円高が進み、ユーロも1.11ドル台中盤から1.12ドル台までユーロが買われた。その後、ドル円もユーロ/ドルも一旦はドル買いの調整が入ったものの、先週はドルが売られたままニューヨーク市場の取引を終えている。週明けの昨日は、東京市場が祝日で休場、ニューヨーク市場もコロンブス・デーのため債券市場が閉まるため為替市場にも大きな動きはないのではと見られていたが、ニューヨーク市場の終盤にはドル円やユーロ/ドルが雇用統計前の水準に戻っている。雇用統計結果が予想を下回ったものの、米国の年内利上げ確率が上昇していることに加え、ロシアがトルコで開催されたエネルギー会議で減産合意に協力する可能性を表明したため原油先物相場が急反発、株価も堅調なままだったことがドル買いにつながったようだ。米大統領選の第2回テレビ討論会で、クリントン氏がトランプ氏へのリードを広げ、外交や経済政策で大きなリスクが生じる可能性が後退したことによる安心感もドルを支えたようだ。ドイツ銀行問題も落ち着きを見せているが、米大統領選挙もドイツ問題も終わった訳ではない。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。